

歴史探訪

クラブ

其の
191

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720
(博物館) FAX 22-2028

渡邊華山の石碑

田原城の跡には、現在田原市博物館や華山会館が建設されています。全国的に見ても城跡は、公共の建物が建っていたり、公園として整備されたり、敷地の中に石碑が建っていることも多くあります。その中でも三ノ丸跡には、田原にゆかりのある人物の石碑や石塔が4つ建っています。静坐法を創始した岡田虎二郎（一八七二～一九二〇、歴史探訪106）・伊奈森太郎（一八八三～



▲渡邊華山之碑

一九六一、同103）と田原藩士で、幕末に活躍した渡邊華山（二七九三～一八四二）と村上範致（二八〇八～一八七二）です。
田原城は、明治維新後、田原藩が廃止されると、明治5年（一八七二）には建物が取り壊されます。そして、今回紹介する「渡邊華山之碑」は華山没後50年の明治24年に建てられました。その経過や計画については『田原市博物館研究紀要第6号』に掲載されています。碑の大きさは、高さ298cm、幅191cm、厚さ23cmで、他の3つに比べ大きく、地盤から3mほど高く土盛りされ、階段

も付けられ、完成当時は金属製の柵（現在はありません）も取り付けられていました。題字は公卿で政治家の三条実美（一八三七～一八九一）、文章は漢学者で、東京帝国大学教授の川田麴江、書は漢学者の長三洲（一八三三～一八九五）、石刻は東京駒込の石屋井龜泉こと二代酒井八右衛門です。碑文の内容は、まず時代の先駆者としての華山、次に田原藩士としての華山、忠孝の人として個人的な面も紹介しています。全文で、1800字にもなる長文のため、簡単ではありませんが、博物館では、碑文をプリントして配布しています。

今年、明治維新から150年にあたり、全国で多くの催し物が開催されます。皆さんの周りにも人物をたたえたり、何かの完成記念で碑が建てられたりしているものもあるはずです。裏面になぜその碑が建てられているかを記している場合もあります。碑を探し、その目的を確認することも歴史へ興味を湧く手助けとなります。

また、本市では、生涯学習と文化振興の基本理念として「ふるさとに

学び 人が輝く 田原の人づくり」を掲げ、田原の歴史を大事にした「田原の人づくり」を推進しています。そんな中、県内の先人として今年から小学2年生の道徳で使用される愛知県版の副読本『明るい人生』（愛知県教育振興会発行）の中に「雪の日の誓い」として渡邊華山が紹介されました。

小学生の皆さんには郷土の偉人について学び、本市の歴史に触れるきっかけになってもらえばと思います。

（鈴木）



▲「渡邊華山之碑」絵はがき